

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(中東・イスラム圏:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MenaOicCountries.html>)

マイライブラリー:0363

(注)本稿は 2015 年 12 月 3 日「アラビア半島定点観測」に掲載したものです。

2015.12.3

前田 高行

(ニュース解説)米国はどうする？ キューバ・グアンタナモ問題

今年 4 月 11 日米国のオバマ大統領とキューバのラウル・カストロ国家評議会議長の二人がパナマ市内で直接会談を行った。両国首脳が会談するのは 1956 年以來 59 年ぶりのことである。そして 7 月 20 日には 54 年ぶりに国交を回復した。二期目の大統領任期も残りわずかとなり、オバマ政権はその名を後世に残す遺産(Legacy)として半世紀以上途絶えていたキューバとの関係改善に踏み切ったようである。大統領の意図がどうであれメキシコ湾を挟み目と鼻の先にある米国とキューバが仲直りすることは喜ばしいことである。



しかしキューバには米国の喉に刺さったトゲが残っている。それが 9.11 同時多発テロ事件で捕捉され今もグアンタナモに拘束されているアル・カイダ残党の取扱いである。彼らは 9.11 事件の後、米国のアフガニスタン掃討作戦で捕捉され、キューバのグアンタナモ米軍基地に移送された者たちである。

(注)詳しくは拙稿「闇に消えるグアンタナモの虜囚たち」(2006 年 12 月～2007 年 3 月)参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/A59Guantanamo.pdf>

そもそもグアンタナモはキューバが独立する以前の 19 世紀末の米・スペイン戦争でスペインが米国に割譲したものである。米国は 1898 年に海軍石炭燃料補給基地を開港、1902 年にキューバが独立した時、両国間で租借条約が結ばれた。条約に期限は無く破棄するには両国の合意が必要である、との条文が明記された。1959 年のキューバ革命により政権を握った現大統領の兄フィデル・カストロは米国にグアンタナモ返還を迫ったが、米国は条文を盾にこれを拒否した。そして 1961 年 1 月、アイゼンハワー大統領(当時)はキューバと断交したのである。

米国は当初軍事機密を理由に収容兵士たちの人数、国籍、取扱いについて口を閉ざしていたが、2006 年になってようやく 759 人全員の氏名と国籍が公表された。それによると国籍は 40 カ国以上に及び、サウジ人が 130 人と最も多く、次いでイエメン人が 107 人であった。米国はアル・カイダ兵士を「戦争捕虜」では

なく「不法敵性戦闘員(Illegal enemy combatants)」と規定し、グアンタナモ移送後は彼らを「拘束者(detainee)」と呼んだ。彼らを戦争捕虜とみなせば捕虜の取扱いを定めたジュネーブ協定に従い収容所内での処遇、取り調べ等を世界に公表しなければならないからである。こうして拘束者たちは裁判も受けられない未決拘留者として 13 年以上グアンタナモに拘束されたままなのである。

アル・カイダについてはオバマ大統領の時代に創設者オサマ・ビン・ラーデンに対する国際的な包囲網が狭まり、ついに 2011 年彼はパキスタンで米軍特殊部隊との交戦により死亡した。精神的な支柱を失ったアル・カイダはその後「アラビア半島のアル・カイダ」、「マグレブのアル・カイダ」などと名乗り中東・北アフリカ諸国でテロ活動を展開したが各国の治安対策強化、あるいはより一層過激なテロ集団「イスラム国(IS)」の台頭によりアル・カイダは弱体化している。

人権を重視するオバマ大統領は拘束者たちを米国内の刑務所に移送し裁判を受けさせることを検討したが、国内から強い反対の声が上がりあきらめざるを得なかった。そのためオバマ大統領は拘束者のうち犯罪の程度が比較的軽く、また治安対策が厳しいサウジアラビア、クウェイト、UAE などの出身者については各国政府と交渉し本国への送還措置が取られた。

サウジアラビアでは帰還者に対して厳しい監視のもとで思想教育を施し数年後に社会復帰させ、彼らの大半は穏健な市民に戻った(但し中には隣国イラクに脱出し再び過激派組織に加わった者もいると言われている)。最盛期に 750 人を超えていた拘束者は 112 人に減少、近くグアンタナモ収容所の閉鎖プランが公表されると言われている¹。現在の拘束者の多くはイエメン人あるいはアフガニスタン人と思われ、彼らを帰国させることはむしろテロリストを野放しにすることになり、米国政府としてはとてもできない相談であろう。かといって米国内の刑務所に移送しさらに正式な裁判を行うことも簡単ではなさそうだ。そのような米国の苦衷を察して親米国家の UAE のようにイエメン人拘束者 5 名の受け入れを表明するところも出ている²。

「イスラム国(IS)」の陰に隠れてすっかり勢いの衰えたアル・カイダではあるが、イスラム過激派であることには変わりはない。米国はこの問題をどのように解決するつもりであろうか。米国が信奉する法の下での正義と平等が試されていると言えよう。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ 2015.11.12 付け Daily Tribune(Bahrain), 'Pentagon to unveil Guantanamo closure plan'
<http://www.newsofbahrain.com/viewNews.php?ppId=8705&TYPE=Posts&pid=22&MNU=3&SUB=6>

² UAE accepts 5 Yemeni Gitmo detainees, 2015/11/17 Khaleej Times
<http://www.khaleejtimes.com/nation/general/uae-accepts-5-yemeni-gitmo-detainees>